

リョービ ミヤコシ

B2 液体トナーデジタル機開発 - 超高速で高解像度 フルカラー毎時 8000 枚 -

(株)ミヤコシ(本社・千葉県習志野市、宮腰巖社長)とリョービ(株)(本社・広島県府中市、浦上彰社長)が、B2判液体トナー方式のデジタル枚葉印刷機を共同開発した。新開発したこのモデルは、B2判の用紙にフルカラーで毎時 8000 枚の超高速印刷処理が行える世界初のモデル。5月3日から独・デュッセルドルフで開催される drupa2012 のミヤコシブース(ホール 9/A04)で、参考出品モデルとして披露される。この製品の詳細について、3月27日、リョービ東京支社で開催された共同記者会見で明らかにした。

今回発表した共同開発製品は、大ロット対応・低コスト・高品質・高速性といったオフセット印刷のメリットと小ロット対応・短い準備時間・バリエーション印刷といったデジタル印刷機のメリットを兼ね備えることを目指したモデル。

高品質の追求という点では、超微粒子の液体トナーを採用して 1200×1200dpi の高解像度を実現。粒径が 1~2 マイクロメートルの液体トナーは粉体トナー(粒径 5~10 マイクロメートル)の技術を融合。B2判(最大用紙寸法 788×600mm)のフルカラー印刷を毎時 8000 枚で処理できる、クラス最高レベルの超高速性を実現した。

機械外観は枚葉オフセット印刷機に近いシルエットで、フィーダーから 1 色につき 1 タワーの印刷ユニットへ用紙が送られ、その後ろに続くトナー定着部を通り、排紙部へと用紙が渡される。また、オフセット枚葉印刷機の用紙搬送技術を受け継いでいることから、通常のデジタル印刷機にはない、0.4mm までの厚紙への印刷も可能。そこで、カタログやポスターなどの一般商業印刷分野における小ロット対応用途やバリエーション印刷用途に加え、パッケージ印刷用途での活用も見込まれる。

会見の席上、あいさつに立ったミヤコシの宮腰社長は、「当社は、前回の drupa2008 で液体トナー電子写真方式のデジタル輪転印刷機のプロトタイプを出展し、そして今回の drupa2012 では B2 判液体トナー電子写真方式のデジタル枚葉印刷機を発表する。今後、紙媒体の印刷物の多くが電子化に移行することが予想される中、比較的電子化されにくい分野で活用でき、かつ印刷会社のみなさんが長く馴染んできた枚葉方式のデジタル印刷機を提供したいという思いから、この製品の開発に着手した。リョービの高速安定用紙搬送の高い技術と当社の液体トナー印刷技術を融合し、念願だった枚葉デジタルモデルを発表でき、とても嬉しく思う」と、開発に至った経緯を話した。

また、リョービの浦上社長は、「IT 化の伸展により印刷業界でも、デジタル印刷機の普及が広がっている。その中でデジタル印刷機に対する大型化・高速化・高品質化という世界的なニーズを受け、互いの強みを持ち合ってミヤコシと共同開発することを決めた。まずは drupa2012 で披露するので、多くの人に見て頂いていろいろな意見を寄せてもらいたい」と述べた。

なお両社では、drupa2012 での反応を踏まえ、来年度中に発売開始することを目指している。

(2012 年 04 月 02 日 日本印刷新聞 掲載)